

竹田市では、経験年数の浅い先生方の要望に応え、今年度、年10回の『人材育成』研修を開催。その中から「授業力向上」と「特別支援教育」についての様子を紹介します。

～特別支援教育～ R8.2.16

～授業力向上～

第1回 R7.8.26、 第2回 R8.1.6

『授業改善をすすめるための大切な視点について』

講師：竹田南部中学校 授業力向上アドバイザー 渡邊 文也先生

<内容について>

「授業づくりの基本」をテーマに、2回にわたり大変有意義な講義となりました。特に経験年数の浅い先生方、中学校の先生方にとって、今後の授業実践に役立つ具体的なヒントが満載でした。

日々の巡回指導より、新大分スタンダードに基づいた優れた授業事例の紹介が多数ありました。また、「教師の慣れや油断」といった見過ごされがちな課題や「子どもたちへの支援」のあり方についても深く掘り下げ、わかりやすい具体的な改善策が示され、実践意欲の湧くものでした。

さらに「授業が上達するためのポイント」として、「たくさん見せてもらうこと」「たくさん見てもらうこと」の2点を挙げ、互見授業の重要性についても納得のいくものとなりました。

先生自身の単元計画やワークシート、全国学力学習状況調査の理科の過去問を用いた実験例を通して、授業のゴールや子どもたちに「つけたい力」を明確にする単元計画の立て方、課題解決学習の進め方について、参加者全員で深く考察する時間となりました。

私たち一人ひとりの授業実践力向上と、授業構想における課題解決への大きな示唆を与えてくれるものであり、今後の授業研究への意欲を高める貴重な機会となりました。

<参加者の感想より>

- \* 授業実践された単元計画は、非常にわかりやすく説得力があるものだった。まずは、その通り実践してみたい。
- \* 生徒と単元の学習や教材について共有するというワークシートが参考になった。



『竹田市の子どもの現状 支援のあり方について』

講師：竹田市こども家庭センター公認心理師/臨床心理士 惠藤 絢香さん

<内容について>

児童・生徒の検査依頼の流れとその中で大事な**学校と本人の主訴のズレ**がなくなることが、その後の支援につながっていくことについて、わかりやすく説明がありました。学校や先生方の**困った子ではなく、困っている子**という正しい認識により、しっかりとアセスメントすることで、その後の支援へとつながっていくことがわかりました。

『アセスメントと学習支援について』

講師：竹田支援学校 特別支援教育コーディネーター 佐藤 いつか先生

<内容について>

惠藤さんのお話を受けて、続いて**個に対応した学習支援**についてのお話が佐藤先生からありました。特に印象的だったのは『鬼退治』の例で、目の前にいる子どもの困りを丁寧に見取らないまま支援をしても、それは効果がないということが、よくわかるものでした。「鬼を退治しない桃太郎に、あなたはどんなことをしますか？」と考えた後、桃太郎の困りを提示すると自分たちの考えた支援が全く見当違いだったのです。**丁寧なアセスメントをし、個別の教育支援計画や教育指導計画にいかし、学校全体として支援体制を整えることが大切である**ということを再認識する機会となりました。

<参加者の感想より>

- \* 主訴がぶれていないことが大切。学校の困りになりがちなので、本人の思いがながいしろにされないようにしたい。
- \* 子どもの強みを生かす「長所活用型」の学習支援をしていきたい。
- \* 予防支援については、すぐにでも取り組めるものがあると感じた。

